

第25回 環境情報科学センター賞 ＜学術論文奨励賞＞

受賞者：山口健介 氏

(東京大学公共政策大学院／日本国際問題研究所)

対象業績：発電立地周辺の地元社会に着目した、洋上風力に関する社会科学的研究



【選考理由】

受賞者は、環境情報科学に掲載された論文「洋上風力発電をめぐる地域社会の移行における課題と提言―秋田県を事例に」をはじめとする一連の業績において、秋田県沖の洋上風力発電導入の地域社会への影響について、漁業者との合意形成プロセス、地域経済への効果、持続可能な社会への移行等、社会科学の手法を用いて、多角的に分析を行っている。

社会技術レジームの概念を地方スケールに適用するという独創的なアプローチは、従来の技術導入や経済効果の分析にとどまらず、地域社会の構造的変化という新しい視点から洋上風力発電の導入過程を捉え直した点で、高い学術的価値を有している。

2050年カーボンニュートラルを目指す日本にとって、洋上風力発電は重要なオプションの一つであるが、再生可能エネルギー導入促進が電源立地周辺の地元社会に与える影響についての研究は必ずしも十分に実施されているとは言えない現状にあり、受賞者の一連の研究の有用性・新規性は高い。また持続可能な社会への公正な移行に関する日本の事例研究はほとんどなく、この点も評価に値する。

以上のように、本研究論文は、理論的独創性、実証的緻密性、実務的有用性を兼ね備えており、学術論文奨励賞にふさわしい独創性、萌芽性、将来性を十分に備えていると判断された。

＜対象論文＞

- ①洋上風力発電をめぐる地域社会の移行における課題と提言―秋田県を事例に（環境情報科学，53-2，2024）
- ②我が国の洋上風力事業における漁業者との合意形成：秋田県男鹿市、潟上市及び秋田市沖における事例と政策提言．日本海洋政策学会誌，第13号，16-32，2024）
- ③Consensus building with fishermen on offshore wind farms in Japan: Current status and policy recommendations, Marine Policy, Volume 160, 2024
- ④洋上風力発電に関する分野を超えた開発政策の提案：港湾/港湾都市の視点から．IFI Policy Recommendation No30, 2024.
- ⑤洋上風力産業の地域経済への貢献：秋田県における拠点港の役割．日本海洋政策学会誌，11，27-41，2021